

事務事業名		文化財整備普及事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 不詳 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	30 地域文化の伝承と創造			
	基本事業名	01 文化財の保存と活用			
根拠法令		文化財保護法、県・市文化財保護条例		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 02 15	
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			
	課長名	江刺雄輝			
	係名	文化財係	電話 27-3111		
	担当者	佐藤 博崇	内線 273		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・文化財の整備と普及を行う事業。主な事業内容は次のとおりである。 ①文化財解説パンフレットの編集(市民向けパンフレットの作成と配布)、②文化財説明看板の設置・更新(老朽化した説明看板や標柱などの更新等を行う)、③大船渡の三面椿見学者用トイレ維持管理(指定文化財の見学者の利用に供するため、公衆トイレの整備を行う) ・事業費は、パンフレット作成費、看板修繕費等に支出される。					
全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業内訳 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 国指定3史跡の解説普及用パンフレットの配布・補充、文化財説明看板の補修、三面椿見学者用トイレの維持管理 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 看板等設置・修繕箇所数</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 看板等設置・修繕箇所数	箇所	イ		ウ	
名称	単位								
ア 看板等設置・修繕箇所数	箇所								
イ									
ウ									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 指定文化財、市民	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 指定文化財数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 指定文化財数	件	キ		ク	
名称	単位								
カ 指定文化財数	件								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 指定文化財を普及・活用する。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 国指定3史跡解説普及用パンフレットの配布用ボックスへの補充・配布数</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 国指定3史跡解説普及用パンフレットの配布用ボックスへの補充・配布数	部	シ		ス	
名称	単位								
サ 国指定3史跡解説普及用パンフレットの配布用ボックスへの補充・配布数	部								
シ									
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・保存・活用される。 ・次世代に継承される。									

(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	235	380	250	466	492	492
			事業費計 (A)	千 円	235	380	250	466	492	492
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5	
		延べ業務時間	時 間	1,500	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	
		人件費計 (B)	千 円	6,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	6,235	5,380	5,250	5,466	5,492	5,492	
⑤活動指標			ア	箇所	1	1	2	2	1	2
			イ		0					
			ウ							
⑥対象指標			カ	件	86	86	88	87	87	87
			キ							
			ク							
⑦成果指標			サ	部	121	320	169	185	798	1000
			シ							
			ス							

事務事業ID	0850	事務事業名	文化財整備普及事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和25年文化財保護法、昭和32年県文化財保護条例、昭和35年市文化財保護条例の施行後、文化財の普及・活用を図るために始められた。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
文化財の保護に係る認識が、一般(行政、住民、建設業者など)に広く普及、浸透してきており、関心が徐々に高まっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・国、県、市民などからは、国指定史跡の活用を図るよう求められている。
・一部の指定文化財において、文化財説明看板及び標柱の老朽化が所有者等から指摘されている。
・国指定名勝及び天然記念物碁石海岸の保存管理計画を策定するよう、文化庁から求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	文化財の周知・普及及び活用が図られることは、地域文化財の伝承と創造のもととなり、豊かな心を育む人づくりの推進に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	文化財保護法、県・市文化財保護条例で、公共の関与が示されているため。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	現段階で、とくに重要なものを指定文化財としていることから、対象は適切である。ただし、今後の調査研究により、新たに文化財指定されることがある。	
	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	文化財を普及するための、市民への情報提供が十分でない。今後は解説パンフレット等を作成、活用しながら普及を図っていく。文化財めぐり及び国指定3史跡の普及活用事業については、震災後、実施できていない。	
効率性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	・今後の史跡活用が図れなくなる。 ・指定文化財の普及・活用が図れなくなる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	指定文化財を観光資源として、観光パンフレット等に掲載し、周知と普及を図る。	
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	今後、史跡等の保存整備を進めていくうえで、相応の費用がかかっていく。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	一般事務職員2名、専門的知識・技術を有する職員3名が他の文化財事業と並行して事務事業を行っており、これ以上の削減は事業の停滞を招く。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	文化財めぐりでは、拝観料等が必要な場合は、参加者からその実費を負担してもらっている。	

事務事業ID	0850	事務事業名	文化財整備普及事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	・国指定3史跡を訪れる人が多く、普及パンフレットの補充・配布数が増加した。 ・一般文化財の解説パンフレットを要望されることが多いが、作成できていない。 ・国指定の文化財など、魅力ある文化財が多数あるが、十分な普及活用が図られていない。																							
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																						
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 文化財を普及するための市民への情報提供が十分でないため、今後は解説パンフレット等を作成、活用しながら普及を図っていく。		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								
・文化財を普及するための、市民への情報提供が十分でないことから、文化財パンフレット等を作成し、市民に広く知ってもらい、文化財の周知と普及を図る。 ・今後の史跡活用や、指定文化財の普及・活用を図るため、この事業を継続する必要がある。 ・今後、史跡等の保存整備を進めていくうえで、相応の費用を年次的に調整していく必要がある。																								

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	生涯学習課	江刺雄輝
-------	-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																								
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																								
(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	限られた人員、予算の中で概ね適切な事務事業執行がなされているが、文化財普及事業の更なる展開が必要である。																							
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(5) 改革・改善による期待成果																						
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 文化財の普及活用に努める。		左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項